

---

# **お悩み相談部活動日記(笑)**

兎夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お悩み相談部活動日記（笑）

### 【著者名】

兎夢

N3936M

### 【あらすじ】

「これは、俺達がちょっとおかしな部活を作つて毎日盛りだけ。  
以上。」

『ちよつと待て――』

「ひなさいな、何だよ一人とも？」

「お前、なんて事言つんだよー。俺達毎日遊んでるみたいじゃんかー。」

「え? 還りの?」

「タイトルのヒット率を高め解決してやるぞー!」

「まあまあ、ケンカするなよ。」

『作者一へ』

「ところが半ば強引で始めるよ。」

『え————?』

## お詫び相談部活動日記（笑）

「なあ、橋。部活を作らないか？」

「は？」

「こいつはこきなり何ぼざこているのだろうか？そもそも、新しく部をつくるために必要な部員と顧問、それから場所はどうするといつんだ」いやつは？念のために尋ねて見た。

「なあ、部活に必要なものは何だ？」

「馬鹿だなあ、そんなの決まってるじゃんか。」

「言つてみる。」

「情熱……」

「すまん。話しこならん。他当たつてくれ。」

「ひどい…？俺にはお前しかいなーんだ！見捨てないでくれ〜。」

「すまん。無理。といふかキモい事言つなよ。」

ヤバい。こいつのせいで吐き氣してきた。それに第一まだ人物紹介すらすんでないじゃないか。といづ訳で適当に紹介する。

俺が御手洗

橋。

橋と書いて橋と読む。よろしく。

きよつ

きよう

そして、隣のアレン奴が、  
**喜田村**  
きたむら  
海人。  
かいと  
変態。  
以上。

喜田村 きたむら  
海人。 かいと

# 海人。 かいと

變態。  
以上。

「よひづくなー。」

「勝手に人の思考読んで話進めるな。そして、ツツコミなし?」

「ええこーいのせこーいのせこーいのせー。話戻すぞ！」  
——」

あ、ついに無理やり話進めるさだ。

「とりあえず、昼休み部員探しの旅に出ようぜー。」

一人で行け。

「うわーん！橋がいつもの五倍冷たいよ。もうあの日の誓いを忘れたっていうのか！？俺の事一生幸せにするって……。」

「お前がいつもの五倍おかしな事しか言ってないからだよ。それに俺はそんな気色悪い誓いは死んでもしない。」

しかし、なんだかんだ言って結局手伝うしか道がなかつた。なぜなら、まだ友達が少ないのでこの時期は一人だとすごく暇なのだ。つまり、俺達はまだピカピカの高校一年生。入学してまだ一週間しかたつてない。

「よし！ それじゃ、部員探し開始！ 最低10人は部員集めるぞ！！

「おー」

海人のテンションに適当に合わせておく。第一まだ、部活がどうだ  
こうだ話すのはまだ早いと思う。そして、こんなまだ出来てもいいな  
い部活に誰が入るなどというのだろうか。まったく…。あ！海人に  
まだ聞いていない事があった。

「なあ、海人。」

「何だよ、良わざうな奴見つかったのか。」

「いや、まだ。」

「じゃ、何だよ？」

「あのや。」

「うそ、何だよ早く言えよ。」

「俺達、今日会つて、初めてだよな。」

そう、俺達は今日友達になつたばかりなのだ。それにしてはすぐ  
馴れ馴れしくないだろ？ そんなことをいつと海人は、

「男が女みたいに細かい事気にすんなよ。それともお前、玉ないの  
？」

俺は海人に右ストレートをお見舞いした。

いろいろな奴をスカウトしまくったが、海人の部活に入るとこ

好きな奴はいなかつた。

そして、放課後。

「あんた達、俺達の部に入らないかとか言って回ってるおかしな奴らは？」

突然、気の強そうな女子が俺達にそんなことを聞いてきた。

「うん、そういうけど」

すると、とんでもない事を言い出してきた。

「アタシも、その部に入れなさい……！」

いた、物好きな奴。

## お説み相談部活動企画（笑）（後書き）

はじめまして。

いかがでしたか？

この小説の作者である僕はむちゅうひー（アーティスト）です。

つまり、なんでも海のよつな広い心で許してくれるとこもわしこです。

そして、良かつたら感想、またはアドバイスをくれると作者はめちゃめちゃ喜びます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3936m/>

お悩み相談部活動日記(笑)

2010年10月9日17時45分発行